

連携と協働、これからの健康経営の形を考える

元気!健康!プロジェクト
職場での健康づくりを応援する

健康みやぎサポーターズ 特集 Vol.19

第1部 基調講演

地域社会と共に栄える会社とは



東北大学名誉教授
同大学院医学系研究科
公衆衛生学客員教授
辻 一郎氏

健康経営勉強会 開催

要チェック!「健康経営」最新線

「健康経営」は、従業員の健康保持・増進の取り組みを企業の将来の収益性を高める投資と考え、健康管理を戦略的に実践すること。業績や採用などでその効果を実感している企業が増えています。河北新報社では、経営者や労務管理者を対象に毎年実施している健康経営勉強会を今年も開催。有識者の基調講演をはじめ、最新の健康経営を紹介するパネルディスカッションなどが行われました。

※「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

第1部 パネルディスカッション

社員がいいきいと働くために



株式会社
復建技術コンサルタント
総務人事部 部長
北村 達也氏

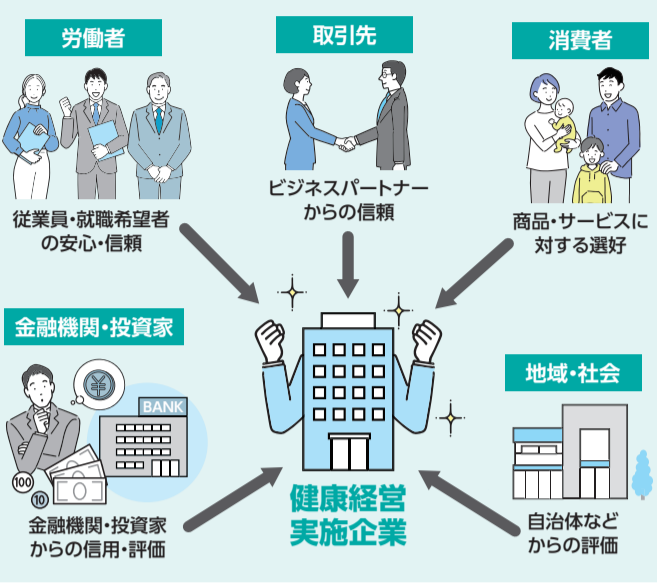
健康経営で、これまでと現在の取り組みは? 北村 健康経営で、これまでと現在の取り組みは? 健康経営で、これまでと現在の取り組みは? 健康経営で、これまでと現在の取り組みは?

健康経営の考え方が国内で初めて提唱された17年。今では多くの大企業、中小企業が企業価値を高める経営の常識として取り組んでいます。宮城県内の企業間でも健康経営優良法人を目指す動きが活発で、2023年の都道府県別認定数の前年度比増加率は全国第4位と、着実に根付いてきていることが見て取れます。

今後、企業が向き合うことになる社会課題が、団塊ジュニア世代が65歳以上になる「2040年問題」。人口減少、ソーシャルキャピタルの脆弱化、労働力不足、購買力の低下などにより、国、地域、市場が縮み、物流も遅れがちになるでしょう。日本社会が「ジリ貧な社会」になっていくわけでは、そんな時代で企業が生き残るために重要なことが、従業員、取引先、消費者などステークホルダーとの連携・協働です。健康経営を実践して世間から優良法人と認識されることによって、多様なステークホルダーから評価が得られたとの声も上がっています。

私が評価委員長を務める厚生労働省の「健康寿命を伸ばそう!アワード」では、生活習慣病予防の優れた取り組みを行っている企業、自治体、団体を毎年表彰しており、それらの中に健康経営のヒントが多くあると感じます。昨年最優秀賞に選ばれた運輸会社は、社内に向けて

ステークホルダーとの関係における「健康経営」のメリット



経済産業省資料をもとに作成



健康経営の定義の中核は、心身の健康に加え社会的な健康を伝えることを大事にしています。健康経営を社内浸透させるには、従業員一人一人が必要性に気づき、現場で実践していけるようになる取り組みが不可欠。大切さを実感してもらうために、会社経営を疑似体験する「健康経営ゲーム」や、自身の強み、弱みを知って仕事に生かす「脳傾向診断テスト」の体感型コミュニケーションを提供しています。

高橋 「職場健康づくり宣言」を積極的に推進しています。事業主に健康経営に取り組むことを宣言していた

北村 採用の際、毎年数人の学生から健康経営優良法人認定を取っていることが志望動機に上がり、採用力の向上を感じます。社内のメリットは健康へのリテラシー向上。健診で保健指導対象になった従業員が、自



ヘルスマネジメントコネク
健康経営研究所 所長
佐藤 利幸氏

健康経営の定義の中核は、心身の健康に加え社会的な健康を伝えることを大事にしています。健康経営を社内浸透させるには、従業員一人一人が必要性に気づき、現場で実践していけるようになる取り組みが不可欠。大切さを実感してもらうために、会社経営を疑似体験する「健康経営ゲーム」や、自身の強み、弱みを知って仕事に生かす「脳傾向診断テスト」の体感型コミュニケーションを提供しています。

高橋 「職場健康づくり宣言」を積極的に推進しています。事業主に健康経営に取り組むことを宣言していた

北村 採用の際、毎年数人の学生から健康経営優良法人認定を取っていることが志望動機に上がり、採用力の向上を感じます。社内のメリットは健康へのリテラシー向上。健診で保健指導対象になった従業員が、自

第2部 協力団体ブース・交流会

第2部の会場には、協会けんぽの資料ブースと脳傾向診断テストの体験コーナーを開設。このテストは、脳科学と心理学の知見、体験から開発されたもので、160の質問への回答から自分の脳の思考傾向が分かり、考え方や行動の特性、強みが数値で表される。体験した参加者の一人は「自分を客観的に知ることができ強みを再確認できた。今後の自信につながる」と話した。参加者の交流の時間も設けられ、コーヒーを手に情報交換の輪が広がった。

第2部 健康経営ゲーム

別会場では健康経営ゲーム体験が行われた。これは、会社運営を疑似的に体験しながら、従業員の健康が業績に影響することを体感できるシミュレーション型ゲーム。会場では社長や役員、従業員などの役割を与えられた参加者が共にゴールを目指した。終了後、社長役の男性は「従業員の健康に気を付けながら経営する苦労が理解できた」と話し、従業員役の女性は「実績を追い過ぎて、自分の健康を犠牲にしてしまった」と反省するなど、仕事と心身の健康の関係性を実感していた。

VOICE 「健康経営勉強会」参加者の声

- 自治体や企業が取り組んでいる具体的な施策を知ることができ、会社単体ではなく、他社、地域と連携が不可欠であることを改めて実感しました。
- 健康経営に関する最近の動向や事例を、会場でもリアルな熱量を感じながら聞くことができ、自社内で展開できるヒントになりました。
- これからの社会・人口構造の変化を踏まえて、健康経営の重要性について分かりやすいご説明で、大変勉強になりました。
- パネルディスカッションでは優良事例を具体的にお話いただき、大変な面や苦労されている裏側を知ることができました。
- それぞれの会社の取り組みの経緯や内容を詳しく聞くことができ、自社でも取り入れられるものがあると思いました。
- 脳傾向診断テストや健康経営ゲームなど、これまで知らなかったものを紹介いただき興味深かった。
- 健康経営ゲームが楽しかったです。従業員に理解してもらうには、楽しみながら学ぶことがとてもよいと思います。

※健康経営勉強会は10月24日(火)に開催しました。運営協力:ヘルスマネジメントコネク お問い合わせ 健康みやぎサポーターズ事務局(河北新報社営業局営業部) Tel.022-211-1318 10:00-17:00(平日のみ) 企画・制作/河北新報社営業局

一生運のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group 住友生命 株式会社復建技術コンサルタント / 明治安田生命保険相互会社 / リコージャパン株式会社

主催: 河北新報社 協力: 宮城県 全国健康保険協会 協会けんぽ 宮城支部 協賛: AXA アクサ生命 Dai-ichi Life Group 杜の都信用金庫 住友生命